本校は、学校関係者評価を学校運営協議会委員にお願いしており、本校の教育活動を幅広く認識している委員から総合評価を行なっている。アンケート結果集計の計算方法は、A B C Dの基準による達成度をより丁寧に評価できるように改善しており、今年度も同手法で集計した。

自己評価に関して、中間評価より総合評価の達成度の数値が上昇し、評価をAとした項目として「1. 生徒の自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等の生きる力の育成に努めている。」をあげたい。次年度より設置される「みらい共創科」の地域との連携した先行授業をはじめ教員研修も積極的に行ったことが上昇したものとする。また、「5. 授業を大切にし、学習できる雰囲気づくりを進めると共に、授業法の研究に努めている。」に関しては、朝学習だけでなく、普段の授業にもICT端末を積極的に取り入れていることによるものと考えている。後述するが生徒のアンケート結果の「授業時間外の学習時間の割合」が上昇したこともこのことと連動しているものとする。

達成度の数値が低い項目としては、「12. 部活動を活発化することによって、学校生活の充実を図っている。」があげられる。生徒および保護者からのアンケート結果でもこの項目の数値が一番低かった。部活動をする生徒はどこの学校も減少傾向ではあるが、生徒が自主的に参加するような部活動の在り方など検討していきたいと考える。

外部関係者からは新学科設置を契機に地元根付いた学校づくりに邁進していけるようアドバイスを受けた。

生徒アンケートからは、言葉遣い・身だしなみ・掃除・公共物を大切にしている生徒が多いことが読み取れる。近年、生徒が落ち着いて学校生活を送っていることを反映している。また、悩みを相談できる人が周囲にいるが8割超える回答であるが、一部の生徒は悩みを一人で抱えていることとなり、より丁寧な対応が必要であることを教員間で共有した。また、長らく本校の課題である「授業時間以外での学習について0分の生徒」に関しては、昨年度は44.3%から38.7%と減少した。今後もICT活用等を進めて、ゼロを目指し取り組んでいきたい。

保護者アンケートからは、学校のマナー指導や服装指導に保護者から高い評価を得ている。学校へ子供を安心して送り出すことができると答えた保護者が9割に上る。昨年度から取り入れた「Classi」で、保護者と双方向の連絡やPDFファイルの送信が可能となり、保護者からは、学校に文書で連絡が取れるようになり、今まで電話に限られた欠席や遅刻の連絡ができるようになった。「保健だより」等の生徒を介して配布していたプリント類も保護者の閲覧率が高く、今後もより多くの教育活動の積極的な発信に努めていきたいと考えている。